

直方市活性化プロジェクト

地域へ筑豊生の元気を届けます！



階藤 千朋

福岡県立筑豊高等学校

直方市活性化プロジェクト

地域へ筑豊生の元気を届けます！

階藤 千朋



活動概要

私たちは直方市の活性化、色を知ってもらおうというテーマを掲げ、グループで活動しました。最終目標を観光ボランティアガイドの実施とし、ガイド先である雲心寺、多賀神社、石炭記念館、谷尾美術館、円徳寺を訪れ建物の歴史だけでなく、直方にゆかりのあるものなどの説明を受けました。また、ガイドをするにあたって高校生目線のおすすめスポットを取り入れたパンフレットや、表紙に直方市の特色を組み込んだオリジナル地図の作成を行いました。パンフレット、ガイド原稿作成をグループで考えていくなかで「直方について知っていることが少ない」という問題点を発見し、直方市役所を訪れ直方の観光スポットごとの観光人数や観光者の市内外の割合などを質問して情報を得ました。歴史的な面では直方観光ボランティアガイドの方2名に講演、実際のガイドを実施していただきその情報を元にパンフレット、ガイド原稿の内容を構成しました。そして11月12日にパンフレットは配布できませんでしたが、観光ガイドの方、先生方を招き実際に観光ガイドを行いました。ガイド後、観光ボランティア班で反省、改善をして11月14日の直方町歩き観光に臨みました。

なぜこの実践活動に取り組みましたか？

私がこの活動に取り組んだ理由は三つあります。一つ目は例年、課題研究地域創生観光ボランティアガイド班で直方の観光者数を増やすためボランティアガイドの実施を行っており、その伝統を引き継ぎ沢山の魅力を持っている直方を知ってもらうために取り組みました。二つ目は昨年度の反省を生かし、高校生が1からガイドコースを考え、高校生らしい紹介をすることで直方に来る方の年齢層の幅を広げていけるのではないかと考えたからです。また、実際にガイドに参加しなかった方でも家族や友人を通してオリジナルパンフレットや地図を見ることができのではないかと思います。三つ目は、私自身が直方に小さいころから住んでいたからです。生まれも育ちも直方で沢山の飲食店、公共施設、観光地、直方に住んでいる方々などにお世話になりこれまですくすくと育つことができました。そんな優しい住民の方や直方を高校生でもできる事でさきやかではあります紹介し、今までの恩を返したいと思ったからです。

課題を解決するためにどのような仮説を立てましたか？

昨年度の改善点、直方市の行ったアンケートをもとに良い点として「直方は緑が豊か」悪い点として「娯楽施設が少ない」のではないかと考えました。さらに詳しく分析すると、昨年度の改善点の地域との結びつきが少ないという点から、娯楽を求めている若い人が直方に来る機会がないのではないかと、そして緑が豊かだという良さを生かしていないから魅力を知らない人が多いのではないかと、この大きな二つにより活性化、直方の特色を知ってもらえないのだと思いました。そしてその後、授業内で生徒のみのアンケートを行い直方の娯楽施設や観光地、有名な産物を知らないまたは少ししか知らないということがわかりました。知らない理由としては若者むきのイベントしか行かない、知る機会がないという点があげられ、分析した結果がおおよそあっていることがわかりました。これを解決するためには、イベントだけでなく日常の中で沢山のの人に自分の目で感じてもらえる観光ガイドボランティアが適切なのではないかと仮説を立てました。高校生がガイドをすることで、若い人だけでなく沢山の年齢層の方に興味を持ってもらい、若い人にはこんなお店あるのかと行きたい気持ちを促進させる効果があると思います。また、ガイドには参加しておらず、娯楽を求めている若者の興味を引き付けるには、歴史ばかりを特集したパンフレットや地図はだけでは難しく、「行きたい」と思ってもらうためには効果がありませんのではないかと考えました。そこで、普通のパンフレットとは違う表紙や構成にオリジナリティを出したパンフレット・地図の作成を行いました。

実践活動では(自身の役割の中で)どのようなことを意識しましたか？またどんな工夫をしましたか？

私たちは実践活動としてまず、ガイド実施のため直方市のガイド場所、直方市の歴史などをインターネット、実際に訪れ情報を得て原稿作成に取り組みました。さらに、実際にガイドをしてもらい空気を感じパンフレット・地図の作成ガイドに向けての校内でのガイド練習を行いました。その活動のなかで意識したことは、小さなことも見逃さないということです。ガイドをする際に観光に来る方を喜ばせるためには、小さなことにもスポットを当て気遣うことが大切だと思います。難しい言葉を砕いてわかりやすくする、日常生活に歴史を交えて親近感が出るようにするなどのちょっとした意識、工夫をすることで、聞く方は理解しやすくその分景色を楽しむことができます。また、わかりやすく短い内容であれば、長い話が苦手な方でも楽しんで最後まで聞くことができます。パンフレット、地図作成では、ありきたりな歴史だけの内容をやめました。パンフレットは背景の色を明るく親しみやすい淡いピンクや黄色にし、紹介分はただ沢山並べではなく、目の悪い方や文字読むことが苦手な方にも見やすいように大きく、簡潔に、わかりやすく構成しました。所々に観光ボランティアガイド班員の画像を加えてユニークさを表現しました。地図に関しては表紙を直方の有名な名所にするをやめて、もっと深くまで知ってもらうために直方に住んでいない人があまり知らない人力車、直方唯一の専門高校である筑豊高校のプラタナスの木、葉っぱをモチーフに1から表紙作成をしました。そうすることで、パッと見た感じの印象が「難しそう」から「何が書いているのだろう」という興味に代わるのではないかと思います。また、歴史とおすすめスポットを5対5で構成しているため、最後まで目を通してもらえるのではないかと思います。





今回の体験を踏まえ、今後、どのように社会・世界と関わり、より良い人生を過ごしますか？

私は今回の観光ボランティアガイドの体験で直方の魅力だけでなく、地域の方の温かさを学びました。ガイドをしているときに限らず、集合場所で待機しているとき、移動しているときにも地域の方々から「筑豊の生徒さん？頑張ってるね」「高校生だけでガイドをすることは立派なことだよ。応援しているよ」と温かい声をたくさんかけていただき、お菓子やお茶などの差し入れなどもいただきました。また、沢山の店の方や観光名所の方々の協力のおかげでここまで取り組むことができ、生活は地域との交流や協力を得て成り立つものだと感じることができました。私は部活動でインターアクト部という12歳から18歳までの青少年または高校生のための社会奉仕クラブに所属しています。部活動の中でも様々なボランティア活動、SDGs活動に取り組む現地の方々の声援や取り組むことの重要性を感じていましたが、改めて、人のため自分のためになる活動だということを確認できました。また、ガイドは地域の活性化だけでなく日常の気遣いを教えてくれる活動であることを実践や見学を通じて学びました。誘導で車が来ていたら旗を持って先にお客様に通っていただく、足が疲れないように適度な休憩を挟む、トイレは大丈夫か具合が悪くないかを定期的に様子を見て尋ねるなど、人として相手を思いやるからこそできることを学びました。私はSDGsや活性化のための取り組みは教科の一つにする、地域で定期的に行うようにすればいいのではないのかと考えました。そうすることで年々減っていく地域との交流や友人の新しい一面を発見することができると思っています。面倒くさいと感じる人も中にはいると思いますが、生活していくうえでも心理的にも周りとのかわりとはとても重要なものになってきます。私はまだ高校生、未成年という立場でSDGsの活動を行っていましたが、ガイドを通じて培った何事にも取り組むことの重要性、人としての思いやりを生かし、将来はボランティア団体もしくはロータリークラブに参加して交流の輪を広げていきたいと思っています。日常の中で培った力を発揮することも大切ですが、それを次の世代に引き継ぐために広めることも大切だと思います。講演などではなく、若い人も興味をもてる体験型の町おこしを考えて参加してもらおうなどの工夫を凝らし、この直方市をもっと魅力あふれる愛される町にするための活動を行ってきたいと思っています。

(自身の役割の中で)実践活動を通して考えたこと、学んだことは何ですか？

私は実践活動の中で全体に携わり円滑に進める役割を担っていました。ガイドをするにあたり、ガイドは一人で行うのではなくチームで行うのだと学びました。ガイドはお客様がいて説明をするだけの簡単なもので、円滑に行えれば自分一人でもできるのではないのかと考えていました。しかし、本番に一人で幾つかのことをやろうとしてミスをしてしまい、観光ボランティアガイド班の皆に迷惑をかけ、手助けしてもらったことでガイドは一人ではできないと身をもって体験したことを今でも覚えています。説明に加え、誘導や声掛けだけでなくお客様の移動の速度に気を遣うメンバーの心遣いをその場で見て「私が一人だったらここまで気を遣えたのかな」と思いました。また原稿を読む際に詰まったとき、視線やハンドサインを送ってくれたメンバーのおかげでその後緊張せず、練習よりもはるかに滑舌よくすらすらと読むことができました。役割の分担としても心理的な問題としてもチームで行えば安心、頼ることができ最高のものが作れるということがわかりました。また、ガイドの方の実践を見学して、自分たちに出来ないことが何なのかを自覚することができました。ガイドの方はガイドをする場所だけでなく、直方のちょっとした小話や空き時間を作らないように現地の人でもあまり知らない場所について説明を行っていました。このことが自分たちの説明は型にはまった原稿通りに読むだけのものだと自覚させ、改善に導いてくれました。改善点の発見を生かしガイド中の空き時間におすすめのお店やイベントについて説明することで、帰りに寄ってもらえるのではないかと考えました。

OR合宿を通じて理解したこと、できるようになったことは何ですか？また、それをどのように実践活動に活かしましたか？

今回はコロナ禍でOR合宿ができませんでした。その中で一学期にガイド原稿の作成、情報収集、パンフレット・地図の内容決めを行いました。この活動を通して臨機応変に対応できる力、予測する力を身に付けることができました。一学期で初めての課題研究ということもあり、活動の中で作っていた原稿の情報がインターネットだけのものを使っていたため、四割近く間違っていた、途中で汚れてしまうという様々なアクシデントが起きました。ですが、夏休みに生徒自ら計画を立てグループごとに再度現地にいった歴史を学び、原稿を一枚多めに印刷していたため、その後の活動がスムーズに行えました。しかし、一学期の活動の中で大きな課題ができました。それはパンフレット、地図の案がありきたり、パンフレット、地図自体をどうすればいいか、何を書けばいいのかわからないというものでした。ほとんどの活動は後々作り直せるため少しのアクシデントや違った内容でも対応できていましたが、パンフレットや地図はまず、雰囲気や誰に向けてどのような構成にするのかを考えなければ修正すらできません。話し合っても見当がつかなかったため、過去の先輩たちのパンフレットの分析を行いました。過去の先輩方のパンフレットはいい点として面白さを出すために生徒のちょっとした画像を取り入れている、構成が見やすい、雰囲気に統一性があるというところでした。ただ、いい点を見つけるだけでは例年と同じものになってしまうため改善点にも目を向け、文字が多すぎて読む力がなくなる、パンフレット、地図の表紙が両方ともオリジナリティがないということがわかりました。グループの意見交換の際にも同じような直方の景色が多かったためほかのパンフレット、地図と差をつけるため地図は一から生徒が表紙を作る、パンフレットは全年代の方に見やすく歴史、現代を取り入れた明るくわかりやすいパンフレットを作るということをテーマにしました。この分析のおかげで二学期はすぐにパンフレット、地図作製を行うことができました。また、何事にも観察することが大切だということを知り、課題研究だけでなく友達、周りの環境の変化に気づくことが多くなりました。

所属学校名 福岡県立筑豊高等学校 3年
学校所在地 〒822-0002 福岡県直方市頓野4019-2
活動者氏名 かいどうちは
階藤 千朋
E-Mail nagatome-s@fku.ed.jp

1. 地域探究アワードエントリー情報

プレゼン審査希望	有			
エントリー単位	グループ			
グループ審査の班員	氏名①	亀津斗真	氏名③	小今井祐翔
	氏名②	菊地龍馬	氏名④	柴田竜希
プレゼン審査希望会場	九州・沖縄			

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

OR合宿先	国立夜須高原青少年自然の家
OR合宿参加期間	2021/4/16 ~ 2021/10/22
OR合宿で実施したフィールドワークの内容	商店街見学

実践活動期間	2021/4/16 ~ 2021/10/22		
実施体制	主な協力者		協力内容
	所属	直方市観光物産振興協会	ガイドの指導
	氏名	栗野丸さん	
	所属	直方市観光物産振興協会	ガイドの指導
	氏名	阿部さん	
	所属	石炭記念館	記念館の紹介
氏名	石炭記念館館長さん		
協力者総数	10名		

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全70日

①事前学習・打合せ	50日
②実践活動本番	5日
③事後打合せ・報告会等	15日

(2)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
4/16 ~ 7/2	①事前学習・打合せ等	筑豊高等学校	調べ学習
7/2 ~ 7/9	①事前学習・打合せ等	明治町商店街	撮影・取材
11/12 ~ 11/12	②実践活動本番	直方駅周辺	観光ガイドボランティア
11/14 ~ 11/14	②実践活動本番	直方駅周辺	観光ガイドボランティア
12/18 ~ 12/18	③事後打合せ・報告会等	九州産業大学	課題研究発表大会